

## 日本常民文化研究所創立 100周年記念事業

### 日本常民文化研究所創立 100周年記念事業へ向けての活動

田上 繁



写真1 アチック・ミュージアムで民具を付けた同人。1933年

1921年に渋沢敬三によって設立されたアチックミュージアムソサエティは、太平洋戦争中の1942年に日本常民文化研究所と改称され、戦後間もない1950年には、財団法人日本常民文化研究所となった。さらに、1982年には神奈川大学へ移管され、以後、神奈川大学日本常民文化研究所として今日まで活動を続けている。こうした幾多の変遷を繰り返しながらも、「論文を書くのではない。資料を学界に提供するのだ」と説く渋沢翁の理念は現在も受け継

がれ、国内外の資料調査や研究活動を行いながら、収集資料や研究成果を広く発信することに努めている。

こうしたアチックミュージアムソサエティから始まった常民研の活動は、来たる2021年には100周年の節目を迎える。本研究所では、2015年度より本格的に100周年に向けた記念事業の準備に取り組むことになった。常民研の歴史は、アチック・ミュージアム時代、財団法人時代、神奈川大学時代の3つの時期に区分される。100周年記念事業に向けての活動を促進するには、まず最初に各時期における関係資料の収集から始める必要がある。

そこで、本年度は、財団法人時代の元メンバーから、当時の活動内容について聞き書きを行うとともに、関係資料の閲覧、ないしは借用のため、2名の自宅を訪ねた。まず、2015年8月7日と10月16日の両日には江田豊宅を訪問し、当時の常民研の活動方針やメンバーの役割分担などについて詳しいお話をうかがった。その際、江田氏が個人的に所蔵されていた常民研の関係資料を、後日スキャンしたのちに返却する約束で拝借した。続いて、2016年1月30日には東京都在住の元研究員の速見融氏の自宅に赴いた。その聞き書きでは、同氏が1950年に常民研に入った経緯や、当時、すでに網野善彦氏、五味克夫氏、二野瓶徳夫氏、中沢眞知子氏、江田豊氏などがいたこと、速水氏が三重県志摩半島、土佐足摺岬、出雲、能登半島へ資料収集に出向いたこと、能登には宮本常



写真2 アチック・ミュージアム内部



写真3 「漁業制度資料」の収集事業に関する資料



写真4 収集事業の調査の際のメモ

一氏と時国家を訪問したこと、など大変興味深いお話をうかがうことができた。とくに、当時、研究所の主導的な立場にあった宇野脩平氏の活動方針や各メンバーの動向など、当事者でなければ知りえない事実を語っていただいた。今後もアチック・ミュージアム時代と財団法人時代を中心に関係資料の収集活動を続けるとともに、記念事業の内容の検討に入ることになる。